

校外教育 研究紀要

〈研究主題〉

地域とともに学ぶ環境学習・活動の創造



川口市立安行小学校

〒334-0057

埼玉県川口市安行原2020

TEL 048-295-1803

FAX 048-295-1975

Email 310.1600@city.kawaguchi.saitama.jp

<http://angyo-e.sakura.ne.jp/>



1 学校概要

本校は「植木の里」安行に位置し、都市化が進んで来たとはいえ、豊かな自然環境に恵まれている。明治6年（1873年）に開校し、来年度は150周年を迎える歴史と伝統のある学校である。巨木のクスノキ、ケヤキをはじめ校庭内の樹木も多く、学年園も充実している。専門家、学校応援団の支援を受けながら学校ファーム、環境学習・活動も進めている。学校南側には昔の安行の自然をそのままに残した「安行原自然の森」があり、生活科、総合的な学習の時間、理科、図工など各教科で地域の歴史・自然を活かした学習を進めている。地域の歴史・自然を生かし、地域の人達の協力を得て、子ども達の環境学習・活動を展開している。

2 研究の概要

(1) 研究テーマ

地域とともに学ぶ環境学習・活動の創造

(2) テーマ設定の理由

本校は豊かな自然環境に恵まれており、校内外を活用した環境学習・活動や地域との交流も進めてきた。こうした環境を活かして、さらに専門家を招請しながら、SDGs（持続可能な開発目標）の視点を持ち、地域や学校のよさや課題を意識し、地域との連携を深めることを通して、地域の歴史や自然を知り、それを守り育てようとする積極的な児童の育成を目指し、本研究をテーマとした。

(3) 研究のねらい

地域の伝統行事を知り、地域の歴史を学び、豊かな自然にふれながら、専門家を招請して環境学習・活動、学校ファーム栽培活動を進めていくことで、未来を担う市民として地域に積極的に関わっていく能力の育成を図る。

(4) 研究計画

- 4月・学校ファーム・環境学習計画の作成
 - ・県絶滅危惧種アカガエルの飼育、保護。
 - ・「安行原自然の森」自然観察会の実施
- 5月・田植え、米作り（5年生）ホタル飼育（6年生）＊10月稲刈り体験
 - ・地域の伝統行事「安行原の蛇造り」見学（4年生） 4年生蛇づくり
 - ・校庭美化作業、PTA、6年生（コロナ禍のため中止）
- 6月・カイコ飼育 糸とり（3年生）
 - ・サツマイモ苗植え（1年生）
 - ・ヤゴ救出大作戦（2年生）ヤゴの放流。
 - ・「安行原自然の森」の樹木、樹名板づくりと設置（5年生）
- 7月・「安行原自然の森」自然観察会（1年生）（4年生）
- 10月・図工「森の妖精の帽子」安行原自然の森での展覧会実施。
- 11月・安行小まつり、地域の方との交流
- 1月・安行東光幼稚園との交流、安行小フレンドパーク。（コロナ禍のため中止）
- 3月・アカガエルの産卵、卵保護、飼育

3 実際の取り組み

今年度大きく課題があったもの、深まったもの、新たな活動について報告をしてみたい。

(1) 地域の自然「安行原自然の森」「ふるさとの森」を利用した活動

各学年とも生活科や総合、各教科で学校に隣接する「安行原自然の森」、学校から近距離で安行中学校裏にある「ふるさとの森」を授業で活用している。

3年生は季節ごとに4回、専門家を講師に招請し自然観察会を実施した。地域の自然、季節の変化を体験を通じて学び、調べ学習を行った。6月の自然観察会では3年生児童が絶滅危惧種のキンラン、ギンランを発見。授業後には公園課、専門家の調査が入り、学校とも相談して保全について話し合い協力することができた。4年生は図工でダンボールで「森の妖精のぼうし」を作成し、安行原自然の森に学校公開時に作品を展示した。参観に来る、保護者、地域の方には作品の説明と同時に森の紹介をタブレットを使ってプレゼンテーションをした。6年生は総合で「ホタル」について調べ学習を行い、地域ボランティアみどりのまちづくり協議会の協力を得てホタル飼育も行っている。5月には学校で飼育したホタルを「ふるさとの森」見学時に、森の水路に放流することができた。



(2) 地域の伝統行事「安行原の蛇造り」の授業

4年生の総合では地域の伝統行事「安行原の蛇造り」を見学して、地域学習を進めてきた。しかしコロナ禍ということで、蛇造りは一般公開されず、子どもたちの見学もできなくなった。今年度はzoomを使いオンラインでの蛇造り見学を行った。4年生は総合で調べたことを蛇造りのポスターにまとめて作成し、公民館やコンビニにポスターを掲示した。さらに蛇造り保存会の方に学校に来ていただき、オンラインでつないで5クラス全員がお話を聞き、質疑応答も行い、新聞作りを行った。出来上がった新聞は蛇造り場の掲示板に掲示して地域に発信した。

(3) 川口の地場産業「鋳物」の授業「ベーゴマ名人になろう」

3年生では社会で鋳物の学習をするが、その学習を発展させて総合で「ベーゴマ名人になろう」というテーマで調べ学習をしながら、ベーゴマ回しにも挑戦した。授業にあたっては川口市郷土資料館井出先生、ベーゴマ名人中島茂さんを講師にお迎えした。11月、12月、2月と継続的に授業に参加していただき、2月には3年生全体でベーゴマ大会を実施した。



(4) 田んぼ再生プロジェクト

本校は児童数増加のためプレハブ校舎の建設となり、そのため学年園、田んぼの場所は完全に撤去されることになった。環境学習や活動の中では学年園や田んぼの活用は重要で

あった。そこで校外に学年園と田んぼを設置することとなった。学年園は学校隣の植木農家さんの土地を借りて作り、田んぼは学校から少し距離はあるが休耕田を学校ファームとして田んぼに再生することとした。

田んぼだけでなく、田んぼビオトープとしてたくさんの生き物が棲める場所にしていく予定である。12月には生き物調査、池作りを行い、1月、3月にはトラクターを入れて耕耘を2回実施した。来年度6月初旬には田植えを予定している。



(5) 校庭の樹木調べ 樹名板を使った活動・授業

NPOリトカルと協力して、校庭の樹木に「はなもく散歩」の樹名板をつけ、樹木地図も完成した。樹名板にはQRコードがつけられ、スマホや児童のタブレットから様々な樹木の情報を読み取ることができ、子ども達が撮影した樹木の写真、調べたことも投稿できるようにもなっている。11月の安行小まつりでは樹名板のお披露目も兼ねて、樹名板ラリーを実施した。3学期には4年生が理科の授業として校庭の樹木調べを行った。授業始めの診断クイズでは樹木名について知っている子、知らない子の差が大きかった。「はなもく散歩」の授業で樹木クイズを楽しみながら樹木や樹木にやってくる昆虫についても調べた。授業を終えて、ほとんどの子どもが校庭の主な樹木に興味を持ちながら覚えることができた。



3 研究の成果と課題

本校は来年度で150周年を迎える。150周年記念誌の編集も始まった。記念誌の編集で資料を調べれば、調べるほど、本校が地域とともにあったことが実感させられる。校庭の樹木を1つ取り上げても、どの樹木も地域の協力で植えられ大きく育ってきたものである。現在も、毎年、PTAや地域の応援で美化作業が行われ樹木の手入れが行われている。

地域の環境はもとから、ただ在るものではなく、地域の先人が自然と関わりながら創り上げてきたものである。しかし、この地域の先人の営みをどれだけ、今を生きる私たちが自覚しているだろうか。校外教育活動を進めるにあたり、様々なアプローチを意識し、組み合わせてきた。「地域は教材の宝の山である」ということがわかったことが研究の成果である。

同時に、地域を教材の宝の山とするには「地域をどれだけ教材化できるか」ということが課題になる。理科の教科書で植物については学習する。それを単に知識としてとどめるのではなく、学校の樹木について生きた知識として活用できるか、知識として活用できるように校庭の樹木を学校は教材化できているのかということが課題となる。校庭樹木では今年度、NPOリトカルと協力して校庭の樹木地図を作成した。その活用がこれからの課題となる。教材化から、さらに授業化を進めることが今後の課題である。

地域の教材化、授業化にあたっては専門家、地域人材の協力が必要不可欠である。そして、それこそが本テーマの「地域とともに学ぶ環境学習・活動の創造」ということになると改めて認識して、今後の研究に取り組んでいくこととしたい。